

2017年7月10日～8月7日
K様ご夫妻 チロル滞在 旅行記

「チロル」よく耳にはするけれど・・・「ハイジ」「サウンドオブミュージック」のシーンは浮かぶけれど・・・いったいアルプス山脈のどのあたり？

暑い日本を抜け出して、安全に山歩きが楽しめ、のんびりできるところに行きたい。それだけの希望でプランを引き受けてもらい出発したチロルの旅でした。

日本では情報も少ないチロル地方、ましてやドイツ語どころか英語もおぼつかない私達には、事前の現地紹介、旅行中の後方サポート等、全くの個人旅行やパック旅行にはない安心感があり、自由があり、その上現地の方々とのふれあいがあると、とても贅沢な楽しい旅でした。こんな旅の仕方もあったのかと感激でした。それから毎年、約ひと月、夫婦で夏のチロル、ドロミテへ旅するようになりました。

今年の旅は、例年になくたくさんの地を巡りました。

10年目の今年は、チューリッヒ空港より、ヘルムットさんが転居された町、ランデックのアパートに夜遅く到着。

彼を訪ねて、旅の始まりはこのアパート生活からに。

生活用品はほぼそろそろ大きなスーパーマーケットもあり、そこに住んでいるかのように過ごした5日間でした。



ランデックの街

ヘルムットさん
9年前サンクトアントンで初めてお会いして以来、
毎年お世話になっている方の一人です。
今年の夏はフェネトパーンに乗り山上へ。
眼下にランデック・ツァムスの町を見ながら
一緒に歩いた日を思い出します。



宿泊したアパート



HAAGSSCHOKO-LADEN
チロル産ココア使用のチョコレート
ショップをさがして街歩き



上品な味 美味しかった



町から30分歩けばもうこんな緑
若いファミリーが湖で水浴



ヘルムットかぶって滝見物
ほぼ垂直の崖に遊歩道で足竦む
工事の大変さを感じます。



食材もビッグ



海の無いチロルにもこんな魚が

6日目、ランデック・ツァムス駅まで、送って下さったヘルムットさんに見送られてナウダースへ。

自転車専用車を牽引した大きなバスで1時間10分走りナウダースへ。



サイクリングはとても人気
長～いバス。日本の道路では
とても無理



12時前到着。村の中心地 すごく静かです。



古城に古い歴史を懐古

2017年7月10日～8月7日
K様ご夫妻 チロル滞在 旅行記



ハウスバーバラ
のどかな場所で可愛い建物

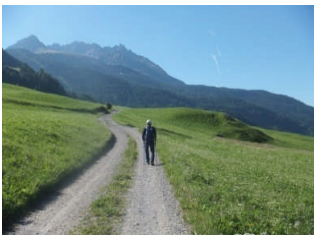


部屋のバルコニーからの眺めは
“緑、緑”遠くの山の上は真っ白
そこから流れ出した豊富な水は、
たっぷり。
飲み放題だとバーバラさんが
指差して教えてくれました。

B&Bバーバラ婦人とのコミュニケーションは、殆どボディランゲージで。
ドイツ語皆無の私達とドイツ語のみの彼女とは、スマートフォンの翻訳アプリを介して
始めたものの、すぐに不要に。心と心で繋がりました。
共通語がなくても旅はできる。
壁などないと再認識しました。



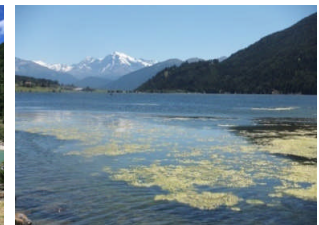
登った甲斐あり。突然目の前に現れたgold see.心が洗われる。



ナウダース村から歩いてイタリア側へ



Reschen湖
珊瑚礁の海と間違えそう。



Haider湖

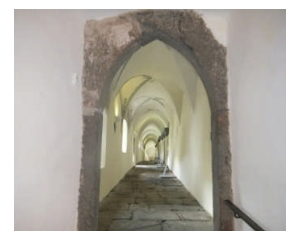
ナウダースから歩いてイタリア側のレッヘン湖畔へ。国境の境の印はなく、ここにも壁は
ありません。廃屋に懸かっていたパスポートチェックの古い看板から判断できるのみでした。
バス、ゴンドラ乗り放題のサマーカードを使って何度も行き来して、絵葉書の景色の中に入
っているような風景を堪能しました。ハイキング三昧の6日間でした。

4年前スルデンからは姿を
見せてくれなかった、真っ白な
オルトラー (3905m)
今日はバッチリ。感激しきり。
Y子さん、もうすぐこの山に登頂予定とか。
より感慨深くしばし見つめる。

12日目、手配してもらっていた迎えのタクシーで、イタリア側の南チロル・チェルトーザへ1時間半のドライブ。
沿道の小高い山の上に古城が点在。見とれているうちに街道に降りると、街道沿いには見渡す限り、リングの木とその加工工場。
その多さに驚いている間に山の中腹にある小さな小さな村へ到着。
昔修道院があったところを山の静かなリゾート地に作り変えているところでした。
ここは、別世界。



木の香りが漂う室内、鳥の声、山の緑、
フレッシュな空気、静か！
時間が止まっているかのような、のんびり至福の時。
“ずーとここに居たい。”



2017年7月10日～8月7日
K様ご夫妻 チロル滞在 旅行記



城壁は残され、建物の中は美術館に。地下室はワインセラーになっているところも

修道院の窓から

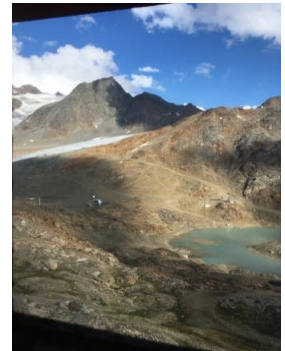


マソコルト

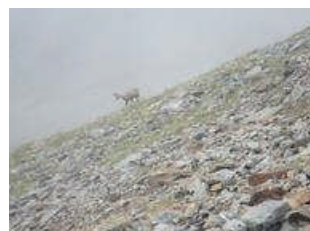


あの山の向こうは、アイスマンの発見された
シミラウン氷河の方なのかなあ？
左方向は明日登る ベッラヴィスタ小屋の方向
思いを巡らせる

夕食時の隣のテーブルのご夫婦は、ドイツからここだけに来たと話されていましたが、納得です。
残念ながら2日間のみ滞りでしたが、翌日のベッラ・ヴィスタ小屋も予想外の素晴らしさ。
日本の山小屋と違い、とても可愛い室内、食事フルコースで美味！。(写真がなくて残念)
そこからの展望は氷河を目の前に絶景！ 標高2800mの山上のプレゼントはビッグでした。



山小屋の可愛い部屋と部屋の窓から見える景色にしばしうっとり



下山時に見つけたアイベックス？？？

(10年ごとの氷河の変遷写真と比べて、すごい勢いで温暖化の弊害が進んでいることに改めて恐怖を感じます)

この小屋からオーストリア側へ続く道は4年前歩いたフェント村へ続いているとのこと。
そこから歩いてきたという青年が教えてくれました。私も思い出し歩いてみたい気持ちになりました。
翌朝、下山開始頃からパラパラと雨模様。マソコルトに下山到着頃にはどしゃ降りになり、ヴェルナ湖までのハイキングは中止に。
ホテルに荷物を受け取りに寄り、再度、素敵なホテルのレストランでランチができたのは不幸中の幸いだったのかも。
ナトゥルノー駅までのバスは、山間の村に立ち寄りながらの移動で、村々ののどかな生活ぶりを少し垣間みることもできました。

2017年7月10日～8月7日
K様ご夫妻 チロル滞在 旅行記

ナトゥルレーノ駅から電車でメラーノへ。乗り換えヴィルビアーノへ。
普通電車もとてもきれいで、ゆったりとした座席。
日本の満員電車とは大違いでびっくり。



ナトゥルレーノ駅

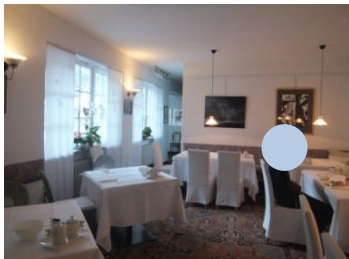


ヴィルビアーノ駅



面白い電車のトイレ
広くてきれい！

親日家の愉快的なホテルのオーナーのお迎えで、イタリアのおしゃれな内装のホテルに到着。(HOTEL SPARERHOF)



美味しい！美しい！
思わず食べ過ぎてしまいました。
雨の中の移動の疲れも吹っ飛びました。

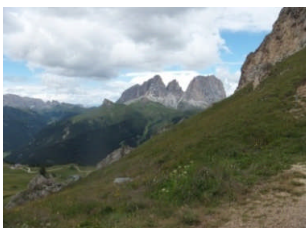
白ワインが美味しいとか
飲めないのが残念！
りんごジュースもピュアな味でおいしかった



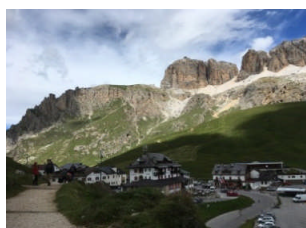
29日間の私達の旅もいよいよ後半に。

迎えのタクシーはクラウディオさんでした。以前彼が運転する大きなベンツの車に乗って移動したことがあり、とても印象に残っている
方のひとりでした。またお会いできて嬉しいやら、安心やら。
お天気の良い中、ドロミテ ポルドイ峠まで2時間余り。セツラ山群、サツソルンゴが目の前に。

以前、この山々を見ながら毎日毎日歩いたな…。また今回手取るように近くで見えるとは。思ってもいなかっただけに感激！



サツソルンゴ



ポルドイ峠

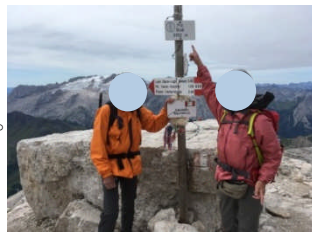


お天気の良い日にピッツボエに登る目的から、
ポルドイ峠に3泊しました。
コルバラ側からお鍋の蓋のようなピッツボエを以前見て、
是非山頂に立ってみたいと思っていたので挑戦。
ポルドイ峠側からなら、私達でも山頂に立てました。
まさかの実現に感激しきりです。

2017年7月10日～8月7日
K様ご夫妻 チロル滞在 旅行記



見渡す限り、白い石と岩。まるで砂漠のよう。
影になる物は何ともありません。
風がきつく寒かったけれど、陽射しが
弱くて歩きやすく、ラッキーでした。



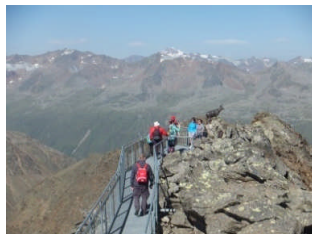
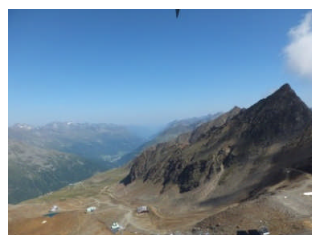
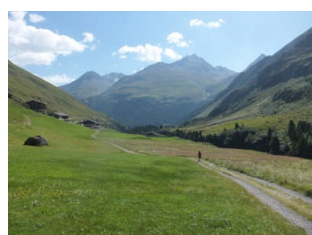
マルモダーラの 氷河が目の前に



お天気が良くなかった1日は
カナツェイのスポーツ店巡りにも行きました。
夏はバーゲンセールもあり、
これも楽しみのひとつです。

19日目 エッツタール・セルデン

日本語取得にとっても意欲的なホテルオーナーに見送られて再びオーストリア側へ。



オーバーグルグルの雄大な山の景色。フェント村の妙に落ち着く居心地良さに再び触れたくて訪れたり、お天気の良さに
誘われて氷河を見にティーフェンバッハやホッホグルグルへ出かけたり、ゴンドラで山頂に上がり、
先日登ったピッツボエを遠くに見つけてしばし、感慨にふけりました。
また、ある日は氷河を遠くに見ながらシュバルツゼーまでハイキング。
ホテル主催のハイキングにも参加しました。充実感を満喫した日々でした。

2017年7月10日～8月7日
K様ご夫妻 チロル滞在 旅行記



とても広くて綺麗なアクアドームのプールで体をほぐしリフレッシュ！
疲れが取れてすっきりです。
ここも、ステンレスのプールでした。

便利なエッツタールカードを使い、フレッシュな空気の中で、目で楽しみ、歩いて楽しみの7日間でした。

バス、電車で最後の地ライテンへ。
ライテン駅に着くと、ママと迎えに来てくれた8才と6才になった子供たちが駆け寄って、一年ぶりの再会を歓迎してくれました。
マーティンファミリーには、もう10年お世話になっています。
井上様のご紹介がなければお知り合いになることはまずないファミリーです。
毎年ここでも、温かく迎えてもらい、ほっと一息。
いつもながらの心のこもったおもてなしに感謝、感謝です。

準備して待って下さっていたマーティンさんのお手製窯のパン焼き見学。美味しい焼き立てパンを早速ご馳走になりました。
またまた、彼の手作りの品が増えていました。
いつもながら、彼の人生観には教えられることが多いです。



この花の蜂蜜最高！

翌日はキュータイへ、ファミリーとハイキングに。
夜にはご両親も一緒にBBQで楽しい時を過ごしました。毎年、チロルの農家の日常生活を体験させてもらっています。



ブルーベリーをいっぱい集めて

2017年7月10日～8月7日
K様ご夫妻 チロル滞在 旅行記



杏子茸は美味しい



とうとう、最終日。乗り合いタクシーでミュンヘン空港へ。
乗り合いタクシーが見えなくなるまでファミリーに手を振ってもらい、帰国の途につきました。

初めてのところ、慣れたところ、いろんな交通手段、スタイルの違う宿泊先と多彩なプランに、今回も飽きることなく、新鮮な感動の日々でした。
雄大な自然の美に魅せられ、温かく迎えて下さるチロルの方々に力をもらい、癒されて、29日間別世界の中で過ごしました。
井上様の豊富な現地での経験や、培われたネットワークのお陰で、何よりも壁を乗り越える力を与えて下さったことに感謝しています。
遠かったチロルが、今ではすっかり近いチロルになっています。

